

2023年3月10日

2022年度茨城大学人文社会科学部後援会支援事業

国際開発学×SDGsゼミナール合宿

「鳥羽市・答志島 SDGs フィールドワーク 2022」報告書

指導教員：教授 野田真里

1. 基本情報

日時：2022年10月18日（火）～21日（金）

場所：三重県鳥羽市答志島

参加者：3年生5名、4年生5名、指導教員1名

補助金の使途：参加学生の交通費

2. 合宿の目的・調査概要等

【背景・目的等】：当ゼミナールでは、国連SDGs（持続可能な開発目標）を中心に、「地球規模で考え、地域から行動する」をモットーに国際開発学について研究しています。SDGsは「誰一人取り残さない」を基本理念とし地球社会の共生を目指す、国際社会の行動計画・国際開発政策です。先進国・途上国を問わず、全世界が経済・社会・環境のサステナビリティの実現にむけて取り組みを進めています。

当ゼミナールのSDGsフィールドワークの目的は次の通りです。現地での調査、現場体験、社会貢献や交流等のアクティブラーニング、PBLをつうじて、①SDGsについて理論と実践の両面からアクティブラーニングを実施、グローバル・ローカルな視点から理解を深める、②SDGの17目標を軸にテーマやリサーチクエスチョンを設定、地球規模課題・地域課題の分析能力、解決能力や協働能力を向上する等をねらいとしています。フィールドとしては、指導教員が研究・社会貢献等にて関わりのある国内・海外の現場を訪問しています。

【調査概要・訪問先等】：今回の「鳥羽市・答志島SDGsフィールドワーク2022」では、僻地つまり「取り残される」地域とされる離島が、実は新型コロナ禍や災害といった外的ショックに対するレジリエンス（強靭性・回復力）を備えている点に注目し、SDGsをふまえて次の4つのテーマ別グループにて、現地調査等を行いました。①鳥羽市における宿泊業の人材不足、②鳥羽市定期船の利用促進、③DXと市民社会、④鳥羽市における持続可能な離島医療となります。調査方法は、文献調査および現地での半構造化インタビュー調査、フォーカスグループディスカッション、非参与観察等を用いました。

主な訪問先・インタビュー調査先は次の通りです：鳥羽市長、市役所関係部局、市議会議員、地域おこし協力隊員、教育委員、答志小学校、答志島和具地区区長、漁業組合委員長、和具漁港、答志島旅館組合、ねやこや、答志小学校、桃取診療所、神島診療所、社会福祉協議会、旅館 寿々波、旅館 八島、島の旅社等。

3. 合宿の成果

【報告会の開催】：学修の成果発表として、「鳥羽市・答志島 SDGs フィールドワーク報告会」を、2023年2月27日（月）10:20～12:20、対面とオンラインのハイブリッドで開催しました。本学の教員、学生、関係者はもとより、現地調査でご協力をいただいた、鳥羽市の市議会議員、市役所職員、地域おこし協力隊にもオンラインでご参加いただきました。

【報告書の刊行】：学修の成果をまとめとして、学生自ら編者者となり、指導教員が監修の下、報告書をDXによりPDFにて刊行、関係者に配布予定です。

【課題解決に向けたアクション】：SDGsを踏まえた現地調査の分析に基づき、学生が関係人口としてかかわる課題解決にむけたアクションとして、政策提言とプロジェクトを提案しました。鳥羽市の市議会議員や地域おこし協力隊員より実現可能性等についてコメント・アドバイスをいただきました。

4. 活動の様子 ※写真にてご紹介



インタビュー調査、フォーカスグループディスカッション：主なステークホルダーとして、鳥羽市市議会議員、教育委員、および答志島の区長、漁業組合委員長等にご協力をいただきました。



海岸での環境保護ボランティア活動。答志島は伊勢湾の入り口に位置するため、海洋ゴミの漂着が大きな問題となっています。



鳥羽市職員等と協働し、道普請ボランティア活動。答志島は少子高齢化により、地域社会でのインフラの維持管理が困難となっています。



旅館での仲居さん職場体験ボランティア活動。答志島は伊勢志摩国立公園内に位置する、一大観光地ですが、少子高齢化により、主要産業である観光業の担い手不足が深刻です。

5. 謝辞

今回の SDGs フィールドワークの実施に際し、茨城大学人文社会科学部後援会の事業支援をいただきました。実り多き学修へのご協力を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。

また、フィールドワークにあたり多大なご協力をいただきました、鳥羽市長および鳥羽市の市議会議員、市役所関係部局、地域おこし協力隊員、教育委員、答志島の町内会長、漁業協同組合委員長ほか、関係各位に深く御礼申し上げます。